



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成26年9月 1日

校長 福田 俊彦

一光景から感じたこと

校長 福田 俊彦

今年度の夏休みは、工事に伴い例年とは異なる状況となりました。保護者、地域の皆様にはご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。この休み中大きなけがや事故の連絡を受けることはありませんでした。一人一人の子供が「自分の命は自分で守る」気持ちを高めていること、ご家庭や地域の方々が子供たちをみんなの子供として見守っていただけたことがあったからと思います。ありがとうございました。

さて、1学期後半のスタートにあたり、子供たちには次のような話をしました。

「オーストラリアのパースで、水泳の国際大会がありました。日本からも多くの選手が参加をしました。その場面を見て思ったことです。水泳は一人で泳ぎます。でも、その人の泳ぎに声援を送っている仲間がいます。その声援が勇気を届けているように思えます。その勇気が自分の力を高めてくれるでしょう。そして、自信となることでしょう。みなさんの生活にもそのようなことがたくさんあります。仲間への声援を、仲間からの声援を大事にして、南町小学校の生活を創っていきましょう。」

このことは、自分の目標に向かって挫折を経験しながらも、再度挑戦し、自分の目標を実現した選手の言葉に心を動かされ、子供に伝えようと思ったことです。

学校ではみんなで取り組むことが多様にあります。一人一人の気持ちが、がんばりが合わさっていく場面です。みんなの思いや願いが実現することもあるでしょう。がんばりやがまんが足りずにうまくいかないこともあるでしょう。がんばりが報われないこともあるでしょう。その時、子供は考えます。感じます。「どうしたらいいのか。」子供は前向きな気持ちをもつものです。その気持ちを受けとめ、子供の力としていくことが大事ではないでしょうか。挫折を味わった一人の水泳選手が、再度挑戦する気持ちに至るには、多くの方々の支えがあったと思います。そして、その支えに応えようとする強さがあったかもしれません。

1学期の後半には、子供たちが創り上げる運動会があります。2学期には、移動教室（5年）、展覧会、社会科見学などがあります。その基礎には日々の学校生活があります。学校生活で積み重ねてきたがんばりや仲間とのつながりが活動を創り上げていきます。そして、創り上げた経験が、子供の自信となります。これからも、保護者、地域の皆様には、子供たちの活動に寄り添っていただき、ご支援を賜ることとなります。南町小学校の子供をみんなの子供としてかかわっていただけますようお願いをいたします。